

令和4年度 中学生の「税についての作文」

優秀作品紹介

11月27日回、玉名市民会館大ホールで、令和4年度中学生の「税についての作文」表彰式が挙行政されました。

今年度は荒尾玉名地域の中学生3,930人から1,148編の応募があり、和水町からは3人の生徒が表彰されました。

また、「税についての作文」の募集について、特に協力が顕著な中学校として三加和中学校に全国納税貯蓄組合連合会から感謝状が贈られました。



- ・南九州納税貯蓄組合連合会優秀賞……………^{ふかくさ}深草^な奈央^おさん（菊水中学校3年）
- ・和水町長賞……………^{なかむら}中村^{ゆう}優希^きさん（三加和中学校3年）
- ・和水町教育長賞……………^{たかだ}高田^{ゆめ}由愛^めさん（菊水中学校3年）
- ・全国納税貯蓄組合連合会 作文募集推進校感謝状…三加和中学校

『税金でつなぐ、未来へのバトン』



菊水中学校 三年
^{ふかくさ}深草^な奈央^お

この国で正しい知識を持った納税者はどれくらいいるのだろう。先日、このような出来事があった。九十歳になるおばあちゃんと話しているとき、「今年の誕生日は何がほしい？」「うーん、新しい服がほしいかな。でも無理なしくていいからね。」「いいや、明日年金が入るから、それでプレゼントを買ってあげるよ。」私はふと、「年金ってなんだっけ？」と頭に浮かび、くわしく調べてみた。

まず、祖母が加入している、国が運営・管理する年金を公的年金という。そして、公的年金制度というのは、今働いている世代が支払った保険料を仕送りのように高齢者などの年金給付に充てるといふ「世代と世代の支え合い」である。年金を受け取るためには、二十歳～六十歳まで年金保険料を支払わなければならない。その義務を果たすことで将来年金がもらえるというわけだ。次に年金と税金とはどのような関わりがあるのか。税金は、一般歳出のうち、社会保障関係費に、全体の四分の一以上の三十三・七パーセント三十六兆二千七百三十五億円が当てられている。社会保障とは、私たちが安心して生活していくために必要な「医療」「年金」「福祉」「介護」「生活保護」など

南九州納税貯蓄組合連合会優秀賞

の公的サービスのことをいう。つまり、年金は「税金でまかなわれている」というわけだ。また、社会保障給付費のうち昭和五十年には、年金の値が三・九パーセントだったのに対して、令和七年には、六十・四パーセントという推測がされている。税金が元となり、今までの社会を担ってきた高齢者の方々にこれからの年金制度を私はずっともらいたいと思う。また、税金のおかげで祖母の生活が守られていると思う。これからは、先日、町の病院に行ったとき、ほとんど高齢者の方で待合室がいっぱいになっていた。少子高齢化が進む中、社会保障にかかる金額は、年々増加し、国民一人当たりの負担は、約十三万四千八百五十九円だと言われている。このような深刻な問題に対して、今の私にできること、それは、勉強に励み、将来正しく納税することだ。勉強ができるのも税金のおかげ。教科書が無償なのも税金のおかげ。一昨年、学校に冷暖房設備が設置された。このような環境で勉強ができるのは、すべて税金のおかげなのだ。また私の住む町では、十八歳までの医療費は無償である。私たちは、税金の繋がりで、顔も名前も知らない多くの人々によって支えられている。ある先生が言っていた。「無料と無償は違う」。私はその無償によって支えられ、次は自分がその無償を次の子どもたちに与え社会に貢献していかなければならない。私は将来、納税という当たり前を当たり前にして、誰かの当たり前を作っていきたい。多くの人を支える人になりたい。今私が多くの人に支えられているように。私はなる。正しい知識を持った納税者に。そして税金でつなぐ、未来へのバトンを。



菊水中学校 三年
^{たかだ}高田^{ゆめ}由愛^め

和水町教育長賞

『一人がみんなのために』

私たちは税金のおかげで生活ができている。きれいに整備された町、安全に登下校できる道路など色々なところで税金とかわわっている。私たちはこれを当たり前のようになっているが、もし税金がなかったらどういう世の中だったのだろうか。町はゴミだらけで全員が学校へ通えるわけではない。また消防車や救急車を呼ぶのにもお金がかかってしまう。

私は最初、税金はあってもなくても変わらないだろうと思っていた。だがそれは全くの誤解だった。税金を払うことでたくさんの命が救われる。また自分自身も助けられる。このような税の大切さを知らずに必要ないなど言っていた自分がとても申しわけなく思った。

私自身税について知らないことが多いため、税について調べてみた。国や都道府県、市区町村では私たちが健康で文化的な生活を送るために個人ではできない様々な仕事をしている。このような公共サービスや公共施設を提供す

るためには多くの費用が必要になる。その費用をみんなが出し合って負担しているのが「税金」という。この税金は、国民の健康で豊かな生活を実現するために国や地方公共団体が行う活動の財源となる。また税金の使いみちとして最も割合が大きいのが社会保障費だ。医療、年金、介護など私たちの生活を守るために欠かせないものである。私たちは今、当たり前のように学校で勉強をしている。この当たり前は税金がないと成り立たなかったことである。勉強ができるのも税をおさめてくれている国民のみなさんのおかげである。そう考えると私たちに保障して下さっているすべての人々にとても感謝している。このことを知って今以上にもっと努力するべきだと感じた。

このように私たちが安心して豊かな暮らしをするために、さまざまな場所で税金が使われている。この税金は自分のためだけではなく他の人のためにも納められている。一人一人が困っている誰かのために納め、安心できれいな町で生活ができている。このことに私はほこりを持ちたいと思った。支え合って生きるといえるのは、まさにこのことだと思った。私たち一人では生きていくことはできない。おたがいに支え合って今の自分ができる。このことを忘れずにこれからも生活していきたい。また、たくさんの方から納めていただいた税金はとても重要なお金である。一つも無駄にせず、自分たちが社会に貢献できるように考えながら生活をしていく。



三加和中学校 三年
^{なかむら}中村^{ゆう}優希^き

和水町長賞

『未来に支える税について』

僕は税金にとっても感謝している。3年前に祖母が亡くなり、現在、僕の祖父は1人で暮らしている。いつも元気でとてもやさしい祖父だ。しかしこの間、そんな祖父が急に体調が悪くなり、救急車で病院に運ばれ、約一ヶ月入院することになった。そのときはとても心配だったが、その病院のおかげで祖父は今でも以前のように元気に生活している。

僕はそのことがあったとき、もしも税金が無かったら僕の祖父は今も元気でなかったかもしれないと考えると本当に怖くなった。税金が無かったら救急車はすぐにこなかっただろうし、安全に病院まで行けなかったかもしれない。また、行けたとしても治療をうけられなかったかもしれない。税のおかげで僕の祖父は元気になったと言っても過言ではないと思う。だから、僕は税金にとっても感謝している。

他にも、僕が税金に感謝していることがある。それは、新型コロナウイルスのワクチンである。僕の母は看護師